

第4部会－資料29

第4部会	分野	行財政運営
A欄に関する意見メモ		
(現基本構想の進捗検証・評価)		
<p>【全体】○基本構想に沿って施策を実施している。○区の目標と区民が感じる目標が一致していない。○区民の基本構想認知度が低く、何をすべきか等の区民の認識が十分でない。○地域の組織は限界にきており逼迫感・悲壮感が更に増している。</p> <p>【財政】○区は稼ぐことへのドラスティックさが不足している。○ふるさと納税による税収流出、都区財政調整の見直しの課題認識はあるが、財政的に恵まれていたからか、お金を稼ぐ本気度が見えない。○行政は単年度会計で予算を消化することが優先されサステナブルでない。</p> <p>【効率化・組織・人事】○職員を削減したというが、サービスとの見合いで適切な人数なのか。住民サービスの水準はどのレベルが適切なのか。</p> <p>○基礎自治体に大きな権限が移り、区が自主的に判断できる余地、裁量が増えている。</p> <p>【施設】○区立施設再編整備は、当初の「削減する」という目的が徐々に甘くなっている。</p> <p>【自治分権】○自治分権の推進は区単独ではできない。都の本気度が見えない中で、区の本気度はどうか。</p> <p>【連携・協働】○自治体間連携について、自治体スクラム支援が機能している。○自治体との包括連携は様々な企業が欲しているが、杉並区は数が少ない。</p> <p>【グローバル化】○区に多くの外国人が来る(incoming)が、若者は外に出て(outgoing)いかない。</p> <p>【情報発信】○何を意識して行政運営をしているかが、正確にマスコミに伝わっていない。○SDGs等の新たな取組について、住民が何をすればよいのか、プラス面はあるのかが理解されていない。○行政の区民への伝え方は、情報を丸めて発信することが常套で、メディアもフィルターを通して情報を伝えてきた。○杉並区は広報が不得手。プロモーションやブランド形成がないことを理解していない。</p> <p>【デジタル化】○ほとんどの自治体で、システムが課ごとの縦割りでベンダーごとに業者が異なっている。</p> <p>【ICT環境】○ネットワーク環境で情報格差がすぐに生まれる。</p>		
(今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点)		
<p>【全体】○コロナによる生活の変化を見据えると、行政のあり方が変わるのではないか。○ネット環境があれば、杉並区に住まなくてもいいことになるかも知れない。リモートワークでも、杉並区に居を構えて仕事をしたいと思えるか、魅力を高めていく必要がある。</p> <p>○次世代を育てる視点が重要であり行政の役割は大きい。○固定観念からの脱却。○根本からドラスティックに考え直す。○今後は薔薇色のことばかりではないこと、痛みを区民と共有して進んでいくことを示す必要。</p> <p>【財政】○財源確保につながる区の資源に関する情報は足で探すもの。地域や行政がどれだけ考え、理解し、それをお金にできるのか。これらは違う視点であり、一人ではできないものではない。○情報を充実する環境をつくるにも、財源の確保が喫緊の課題。少子高齢化が進む中で尻つぼみになることは予想がついている。○SDGsの1丁目1番地は持続的な稼ぐ力と柔軟な予算。</p> <p>【組織・人事】○権限移譲等の裁量をより効果的な政策にいかにつなげていくか、職員自ら見極めて、考え、実践していく時代となっている。</p> <p>【施設】○区立施設の再編整備は今後10年間で大きな財政負担になる。</p> <p>【連携・協働】○これまでのメンバーシップ、資源や資源依存関係の構造を見直し、今後10年で何が必要かを整理する。○民間連携を拡充するなら人事評価も大切である。○お金を使わず、企業の知恵を出させる視点</p> <p>【グローバル化】○国際的な基準から杉並区を見ることが重要だ。○職員のグローバル化は必須であり、日本だけ見ては気付けられないことがある。</p> <p>【情報発信】○行政の意図ではなく、ありのままを正直に伝えることが重要。ありのままに伝える勇気をこれからの10年は持たなければならぬ。</p> <p>【デジタル化】○政府による完全デジタル化の推進</p> <p>【ICT環境】○ネットワーク環境整備は次世代への投資という視点が重要。○リモートができない人の差別が生まれる可能性があることを心得る。</p>		

B欄に関する意見メモ
(今後の行財政運営のあり方)
<p>どのような情報を行政が保有し、戦略的な広報によりそれをどのように正確にマスコミ・区民・事業者と共有するか。</p> <p>資源を見える化したうえで、いかに稼ぐか、そこが行財政基盤の強化につながっていくストーリー性を持った展望を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 持続的な稼ぐ力 ■ 定常型社会を目指す ■ 職員の政策形成・実践能力向上(高度化) ■ 民間人材の戦略的登用 ■ 区民との対称な情報共有・戦略的広報 ■ 民間企業・海外との連携強化 ■ デジタル化

※ 部会として特に大切と考える意見は太字で表示

C欄に関する意見メモ	(基本的な取組の方向性)	(具体的な手段・方法、取組など)
<p>【全体】</p> <p>○いかに戦略的に縮んでいくのか、定常型社会を目指していくのかも大切。</p>		—
<p>【財政】</p> <p>○区自らが稼ぐビジョン・発想</p> <p>○持続的な稼ぐ力と柔軟な予算編成(予算編成の弾力化)</p> <p>○不要なもの、時代に合うもの・合わないものを見極める聖域なき行財政改革</p>		<p>【財政】</p> <p>○区の資源をお金に換える。その前提として区資源の見える化が必要</p> <p>○区資源の価値づけのための戦略的広報</p> <p>○企業誘致</p> <p>○海外事例を参考にしたネーミングライツの実施</p> <p>○ふるさと納税を活用した地方学生支援</p>
<p>【組織・人事】</p> <p>○職員の政策形成・実践能力の更なる向上</p> <p>○個人的(マイクロ)の観点と属性や背景、資源(メゾレベル)の観点を保有</p> <p>○民間経験がある人材の戦略的登用</p> <p>○海外の都市との協働推進</p>		<p>【組織・人事】</p> <p>○区の行政サービス標準の明確化による適正配置</p> <p>○在宅勤務で地域の情報を収集</p> <p>○サイバーセキュリティ・中小企業育成分野への民間人材登用</p> <p>○連携・ICTの担当課の設置</p> <p>○企業からの出向等で民間の知恵と人材を確保</p> <p>○特色のある企業との人事交流</p> <p>○海外姉妹都市への視察、海外留学の支援</p> <p>○国際自治体都市協会への職員派遣</p>
<p>【施設】</p> <p>○民間施設を活用したサービス・居場所の提供</p>		<p>【施設】</p> <p>○民間施設を活用した学生の居場所確保</p>
<p>【連携・協働】</p> <p>○広域連携、自治体間連携、地域循環共生圏の強化</p> <p>○スタートアップ若しくは中小企業と行政の連携</p>		<p>【連携・協働】</p> <p>○脱炭素化の取組等(広域連携、自治体間連携、地域循環共生圏)</p> <p>○自治体間連携で民と民をつなぐシステム構築</p> <p>○官民連携の効果測定の数値目標、人事評価基準の構築</p>
<p>【情報発信】</p> <p>○区民との対称な情報共有(非対称性の解消)</p> <p>○情報(真実)を正確に伝える努力、情報の出し方の変革、構造の改革</p> <p>○SDGsに関する区民の行動変容のための理解促進</p>		<p>【情報発信】</p> <p>○行政とマスコミの対話を拡充</p> <p>○根本的な対話、オープンな対話の場の確保</p> <p>○オンラインでの区民意見聴取</p> <p>○(SDGs浸透のため)図書館の本を17の目標別に並び替え</p>
<p>【デジタル化】</p> <p>○調達体制のスマート化・オープン化</p> <p>○(区が)パブリックデータの拠点</p> <p>○デジタルテクノロジーによる区民意見聴取</p> <p>○業務効率化、不正防止、環境対策、災害対策</p> <p>○区保有データをデジタル化・オープン化</p>		<p>【デジタル化】</p> <p>○ペーパーレス化</p> <p>○分散している行政情報のDe-siloing(統合化)</p> <p>○区民が避難所で情報収集ができる環境整備</p> <p>○「Dig Once」道路埋設物の情報を集約・保有</p>
<p>【ICT環境】</p> <p>○ネットワーク環境整備は「基本的人権」という視点</p>		<p>【ICT環境】</p> <p>○Wi-Fiによるどこでも仕事できる環境の整備</p> <p>○就学者の家庭ネットワーク環境の整備</p>